

47:1 ヨセフはパロのところに行き、告げて言った。「私の父と兄弟たちと、羊の群れ、牛の群れ、そして彼らのものすべてがカナンの地からまいりました。そして今ゴシェンの地におります。」47:2 彼は兄弟の中から五人を連れて、パロに引き合わせた。47:3 パロはヨセフの兄弟たちに尋ねた。「あなたがたの職業は何か。」彼らはパロに答えた。「あなたのしもべどもは羊を飼う者で、私たちも、また私たちの先祖もそうでございます。」47:4 彼らはまたパロに言った。「この地に寄留しようとして私たちはまいりました。カナンの地はききんが激しくて、しもべどもの羊のための牧草がございませんので。それでどうか、あなたのしもべどもをゴシェンの地に住ませてください。」47:5 その後、パロはヨセフに言った。「あなたの父と兄弟たちとがあなたのところに来た。47:6 エジプトの地はあなたの前にある。最も良い地にあなたの父と兄弟たちとを住ませない。彼らはゴシェンの地に住むようにしなさい。もし彼らの中に力のある者がいるのを知っていたら、その者を私の家畜の係長としなさい。」47:7 それから、ヨセフは父ヤコブを連れて来て、パロの前に立たせた。ヤコブはパロにあいさつした。47:8 パロはヤコブに尋ねた。「あなたの年は、幾つになりますか。」47:9 ヤコブはパロに答えた。「私のたどった年月は百三十年です。私の齢の年月はわずかで、ふしあわせで、私の先祖のたどった齢の年月には及びません。」47:10 ヤコブはパロにあいさつして、パロの前を立ち去った。47:11 ヨセフは、パロの命じたとおりに、彼の父と兄弟たちを住ませ、彼らにエジプトの地で最も良い地、ラメセスの地を所有として与えた。47:12 またヨセフは父や兄弟たちや父の全家族、幼い子どもに至るまで、食物を与えて養った。47:13 ききんが非常に激しかったので、全地に食物がなく、エジプトの地もカナンの地もききんのために衰え果てた。47:14 それで、ヨセフはエジプトの地とカナンの地にあつたすべての銀を集めた。それは人々が買った穀物の代金であるが、ヨセフはその銀をパロの家に納めた。47:15 エジプトの地とカナンの地に銀が尽きたとき、エジプト人がみなヨセフのところに来て言った。「私たちに食物を下さい。銀が尽きたからといって、どうして私たちがあなたさまの前に死んでよいでしょう。」47:16 ヨセフは言った。「あなたがたの家畜をよこしなさい。銀が尽きたのなら、家畜と引き替えに与えよう。」47:17 彼らがヨセフのところの家畜を引いて来たので、ヨセフは馬、羊の群れ、牛の群れ、およびろばと引き替えに、食物を彼らに与えた。こうして彼はその年、すべての家畜と引き替えた食物で彼らを切り抜けさせた。47:18 やがてその年も終わり、次の年、人々はまたヨセフのところに来て言った。「私たちはあなたさまに何も隠しません。私たちの銀も尽き、家畜の群れもあなたさまのものになったので、私たちのからだも農地のほかには、あなたさまの前に何も残っていません。47:19 私たちはどうして農地といっしょにあなたさまの前で死んでよいでしょう。食物と引き替えに私たちと私たちの農地とを買い取ってください。私たちは農地といっしょにパロの奴隷となりましょう。どうか種を下さい。そうすれば私たちは生きて、死なないでしょう。そして、土地も荒れないでしょう。」47:20 それでヨセフはエジプトの全農地を、パロのために買い取った。ききんがエジプト人にきびしかったので、彼らがみな、その畑地を売ったからである。こうしてその土地はパロのものとなった。47:21 彼は民を、エジプトの領土の端から端まで町々に移動させた。47:22 ただ祭司たちの土地は買い取らなかった。祭司たちにはパロからの給与があって、彼らはパロが与える給与によって生活していたので、その土地を売らなかったからである。47:23 ヨセフは民に言った。「私は、今、あなたがたとあなたがたの土地を買い取って、パロのものとしたのだから。さあ、ここにあなたがたへの種がある。これを地に蒔かなければならない。47:24 収穫の時になったら、その五分の一はパロに納め、五分の四はあなたがたのものとし、畑の種のため、またあなたがたの食糧のため、またあなたがたの家族の者のため、またあなたがたの幼い子どもたちの食糧としなければならない。」47:25 すると彼らは言った。「あなたさまは私たちを生きさせてくださいました。私たちは、あなたのお恵みをいただいてパロの奴隷となりましょう。」47:26 ヨセフはエジプトの土地について、五分の一はパロのものとしなくてはならないとの一つのおきてを定めた。これは今日に及んでいる。ただし祭司の土地だけはパロのものとならなかった。47:27 さて、イスラエルはエジプトの国でゴシェンの地に住んだ。彼らはそこに所有地を得、多くの子を生み、非常にふえた。47:28 ヤコブはエジプトの地で十七年生きながらえたので、ヤコブの一生の年は百四十七年であった。47:29 イスラエルに死ぬべき日が近づいたとき、その子ヨセフを呼び寄せて言った。「もしあなたの心にかなうなら、どうかあなたの手を私のもの下に入れ、私に愛と真実を尽くしてくれ。どうか私をエジプトの地に葬らないでくれ。47:30 私が先祖たちとともに眠りについたなら、私をエジプトから運び出して、先祖たちの墓に葬ってくれ。」するとヨセフは言った。「私はきくと、あなたの言われたとおりにいたします。」47:31 それでイスラエルは言った。「私に誓ってくれ。」そこでヨセフは彼に誓った。イスラエルは床に寝たまま、おじぎをした。

はじめに

先週は、創世記 46 章の学びを終えました。そこで、ヨセフがエジプトの文化や政治についてよく理解していることがわかりました。

彼には、家族を住ませたい場所がありました。そして、文化の違いを考慮しつつ最善の土地を得る方法を心得ていました。

抜け目のないことは、きよさとかけ離れた異質なことではありません。

ヨセフは、語るべき時と口を閉ざすべき時を悟っていました。(箴言 21:23)

それで、父と兄たちに、エジプトの王パロに職業を尋ねられたら羊飼いだと答えるようにと言いました。

さて、47 章の学びを始めましょう。なぜヨセフが父と兄たちにそのような助言をしたのかがわかってきます。

1. ヨセフが家族を王に紹介する。ヤコブがパロにあいさつする。(1-12 節)

私は、バッキンガム宮殿でエリザベス女王とアフタヌーンティーをともしたことはありませんが、私が 16 歳くらいになるまでは、母は万が一に備えて私を育ててくれました。

英国では、古くビクトリア女王の時代から、テーブルマナーや上流階級の人々とお会いするときの振舞い方が大切にされていました。

母もそういう時代の人です。

母は裕福な家庭で育ったので、テーブルマナーやビクトリア朝式の礼儀作法はとて厳しくつけられました。

14 歳のとき、初めてのガールフレンドと手をつないで歩いているときに母にひどく叱られたことがあります。

ガールフレンドがいたことを叱られたわけではありません。歩道のどちら側を歩くかが間違っていると行って叱られたのです。

母は、常に車道に近いほうを私が歩かなければならないと言いました。車の水はねがガールフレンドにかからないように、ということです。

その日は晴れていましたが、母は正しいことをするというのに厳しかったのです。

この話をしたのは、王や女王の前であるべき振舞いや話し方について私が教わったということをお伝えするためです。

私は正しい振舞いや話し方を心得ていましたし、私のテーブルマナーにはきっとエリザベス女王も感心したはずですが。

同じように、ヨセフもエジプトの王パロの前であるべき振舞いや話し方を心得ていました。

長年、このために備えられてきたのです。

ヨセフがまずパロに話したのは、家族がエジプトに到着したが、ゴシェンにいるということでした。

ゴシェンは、ナイル川デルタの東部地域です。

パロが住んでいた首都からは離れていて、そこにたどり着くには川を二つ渡らなければなりません。

デルタ地帯ですから、肥沃な農耕地でした。

ヨセフは兄たちのうち 5 人だけをパロに会わせました。おそらく、行儀のよい 5 人を選んで紹介したのでしょう。

パロは最初に、兄たちの職業を尋ねました。

彼らは、羊飼いだと答えました。

そして、先祖代々の職業だと伝えました。

先週の個所で、羊飼いがエジプト人に忌み嫌われているとありました。

ですから、エジプト人の居住区域にこの一家を住ませることはできません。

兄たちが、ゴシェンの地に住まわせてくださいと言ったのは、少しずつうずうしかったかもしれません。

それでも、パロはヨセフに話しかけ、ヨセフの父と兄たちとその家族をゴシェンに住まわせる許可を与えました。

パロは太っ腹にゴシェンの土地を与えてくれただけでなく、兄たちの中で有能な者がいれば、パロの家畜を世話する責任者にするとも言いました。

ヨセフは賢明で働き者であると評判だったので、パロは家畜をしっかり管理してもらえる機会を逃したくないと考えたのでしょう。

王との謁見がうまくいき、ヨセフは次に父をパロに紹介しました。

そこでヤコブはまずパロにあいさつしたとあります。

ヤコブのあいさつの言葉は記されていませんが、王にあいさつする場合は、当時の慣わしでは通常、王の長命を願います。

次に、パロがヤコブの年齢を尋ねました。

エジプトの歴史学者の研究によると、当時のエジプト人の寿命は約 110 年でした。

パロは、ヤコブが 130 歳だと聞いて驚いたでしょう。

ヤコブは、自分の人生や家族の過去について正直に答えました。

10 節には、ヤコブがパロに再びあいさつして立ち去ったとありますが、英語の聖書では、「あいさつ」の部分が「祝福した」と訳されています。

その内容は定かではありませんが、おそらく何か肯定的な言葉を残して去ったはずです。

ヤコブがパロを祝福したことは、創世記 12:1-3 で神がアブラハムに約束なされたことに即しています。

創世記 12:1-3

12:1【主】はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。12:3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」

パロがヨセフを大いに祝福したことは明らかです。それで、今度は神が、ヤコブによって語られたことばを守り、パロを祝福してくださるのです。

最後に、11-12 節には、ヨセフが父と兄たちと一族全員に食物を与えたとあります。

適用

今日、イスラエルとユダヤ民族についてひとつの疑問がよく持ち上がります。

それは、イスラエルの民、神の選びの民を支援する人たちを、神は今も祝福してくださるのか、という疑問です。

この疑問のもうひとつの側面は、神は現代においても、ユダヤ民族をとおして世界中を祝福されるのか、ということです。

ふたつめの疑問について、イスラエルは今もあらゆるかたちで世界中の祝福であると信じています。

まず大切な霊的祝福は、イエスがユダヤ人であるという事実です。

イエスのユダヤ人としてのアイデンティティを消し去ることはできません。

ユダヤ人であることはいつまでも変わりありません。

次に、イスラエルでも、それ以外の土地でも、ユダヤ人のいるところで、神はユダヤ人を祝福しておられます。

a) イスラエルは、世界屈指の高度な災害支援綱領を持っています。

世界各国で災害支援を提供し、何度も表彰されています。

ハイチ大地震での功績が広く知られていますが、それ以外にもたくさんあります。

b) イスラエルは、技術開発や商品開発に関して、世界でもっとも革新的な国です。

これについて、新商品の特許に関するわかりやすいデータがあります。

新商品を開発する際、商標登録することで、そのデザインを勝手にまねされないようにできます。

イスラエルが革新的であることを裏付けるデータは次のとおりです。

1980 年から 2000 年にかけて、新しく発明されたものに関する特許数をご紹介します。

米国: 国際特許数 77 件

中近東全域: 177 件

イスラエル: 7,652 件

イスラエルは、世界初の点滴かんがい農法を生み出しました。現在では世界 110 ヶ国でこの農法が広く使われています。

これにより、4 割の節水を実現しながら、収穫率は 5 割増しとなります。

他にもたくさん発明された技術を紹介したいところですが、時間の関係でここでとどめておきます。

ひとつめの疑問に答えるのはもう少し難しくなります。

今日でも神の選ばれた民イスラエルの人々を支援すれば、その人たちは神から祝福を得るのでしょうか。個人レベルでは、私の周囲で個人的にイスラエルのために祈って支援している人たちは、とても祝福されていると証します。

個人の証に異論を唱えることは私はしませんから、その人たちの証をそのまま受け入れます。

ひとつ言えることは、もしイスラエルにいく機会があれば、イスラエルと旅行業で支援していることになりまし、その旅によって霊的にも豊かになって祝福されると思います。

もし、ユダヤ人の人を信仰面や物質面で支援する機会を得たら、あなたの親切に必ず神が報いてくださると私は信じます。

というわけで、聖書から教えられる神学的見解からも、個人の経験からも、イスラエルとユダヤ人を支援する人に対する約束を神が守ってくださると私は考えます。

国家レベルで考えると、これまでは英国と米国がイスラエルを大いに支援してきました。

歴史を見れば、このふたつの国は、神の祝福を受けてきました。

けれども、この二国の若者たちからは、イスラエルを支援する精神は薄れています。

これはおもに、この二国のクリスチャンの変化と、クリスチャン人口の減少が原因です。

今日は神学的な議論をする時間はありませんが、世界中がイスラエルに敵対する終わりの時代が来て、その後イエスが再臨なされると聖書は教えます。

神は、イスラエルに敵対する国々を裁かれます。

マタイ 24:7-9

24:7 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。24:8 しかし、そのようなことはみな、産みの苦しみの初めなのです。24:9 そのとき、人々は、あなたがたを苦しいめに会わせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。

ゼカリヤ 14:12-18

14:12 【主】は、エルサレムを攻めに來るすべての国々の民にこの災害を加えられる。彼らの肉をまだ足で立っているうちに腐らせる。彼らの目はまぶたの中で腐り、彼らの舌は口の中で腐る。14:13 その日、【主】は、彼らの間に大恐慌を起こさせる。彼らは互いに手をつかみ合い、互いになぐりかかる。14:14 ユダもエルサレムに戦いをしかけ、回りのすべての国々の財宝は、金、銀、衣服など非常に多く集められる。14:15 馬、騾馬、らくだ、ろば、彼らの宿営にいるすべての家畜のこうむる災害は、先の災害と同じである。14:16 エルサレムに攻めて來たすべての民のうち、生き残った者はみな、毎年、万軍の【主】である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために上って來る。14:17 地上の諸氏族のうち、万軍の【主】である王を礼拝しにエルサレムへ上って來ない氏族の上には、雨が降らない。14:18 もし、エジプトの氏族が上って來ないなら、雨は彼らの上に降らず、仮庵の祭りを祝いに上って來ない諸国の民を【主】が打つその災害が彼らに下る。

イスラエルとユダヤ民族がイエスの再臨のときに与えられる神の祝福のひとつであると聖書が教えていることは明らかです。ですから、この国を支援することは、神をたたえることです。

パロはヨセフを支え、ユダヤ民族の発展の始まりを後押ししたことで、大いに祝福を受けました。

2. ヨセフがエジプトの飢きんに対処する。(13-26 節)

ヨセフがエジプトの飢きんをどのように乗り切ったかについて 13 節にわたって記されています。

13 節では、飢きんがひどくなり、誰も食べ物なかったとあります。

この時点までは、人々はお金を払ってヨセフから穀物を買っていました。その穀物は、7 年の豊作の期間に備蓄しておいたものです。

人々のお金が尽きると、ヨセフは家畜での支払いを認めることにしました。

それから一年経ち、人々は穀物を求めてヨセフのもとに戻ってきましたが、このときはお金も家畜もありませんでした。

ヨセフは今度は、穀物の代金として土地を求めました。

こうして、エジプトの人々は皆、パロに従属する者となりました。

すべての人はパロのしもべとなりましたが、現地の異教の祭司はパロから給与を支給されていたので、土地を売る必要はありませんでした。

23-24 節では、飢きんが終わろうとしているようです。

ヨセフは、パロのものとなった土地にまくために、エジプトの人々に種を与えました。

人々は、小作人となったのです。

ヨセフは、収穫の 2 割をパロに納め、8 割は各家庭で使うように人々に命じました。

人々は、ヨセフの要求を肯定的に受け止め、パロのしもべになることに同意しました。

26 節でヨセフは、すべての土地の収穫物の 2 割はパロに納めることをエジプトの法律としました。

私たちに当てはまる教えについて考える前に、ヨセフがエジプトや周辺諸国の人々に少し手厳しいのではと感じませんか。

空腹にあえぐ中、ヨセフの要求を呑むほか彼らに選択肢はありませんでした。

なぜヨセフは人々に対してもう少し同情的な対応ができなかったのでしょうか。

なぜ最終的にパロが祝福されるようにすべてを手配したのでしょうか。

まずここでお伝えしなければならないことは、ヨセフが置かれていたのは、神によってあらかじめご計画された未曾有の状況だったことです。

もしこの時代に、近隣諸国のすべての人が食べられるように管理する責任を負ったら、私たちならどうするでしょう。とてもむずかしい務めです。

ですから、ヨセフにとっても 7 年間の飢きんを乗り切るのは簡単ではありませんでした。

次に、ヨセフはエジプトにおいて、当時のエジプトの文化背景の中ですべてをなしていたことを忘れてはいけません。

ヨセフは、ヘブル人の文化や慣わしに従って行動していたわけではありません。

聖書では、このときまだレビ記や神の律法の書が記されていない時代です。

ですから、ユダヤ人の律法に従っていないと言ってヨセフを裁くことはできません。

ここで理解しなければならないことは、エジプト人が収穫からパロに納める割合において、ヨセフがあわれみを示していたことです。

当時の世界では、王に収穫の 4 割を納めるのが通常でした。

ですから、ヨセフが徴収した 2 割というのは、とても低い割合と考えられます。

ヨセフがこれを法律としたのも、人々にとって良い条件を保つためだったかもしれません。

国によっては、収穫の 6 割が徴収されるところもありました。

ヨセフはパロにとってよい管理者でしたが、非情な人ではありませんでした。

最後にお伝えしておかなければならないことは、祖父アブラハムに対して神がなされた約束が成就するために、ヨセフは与えられた状況に対処していたということです。

神は、ご自身の選びの民を祝福する人々を祝福するとおっしゃいました。

神はその約束を守っておられました。ヨセフをとおして、パロは大いに祝福を受けました。

もうひとつ考えなければならないことは、ゴシェンにいる神の民の祝福です。

食物も家畜も、神の民を確立する上で必要なものはすべて、パロをとおしてエジプトの国の財源から出されました。

これは、ヨセフの賢明な管理監督によって飢きんをうまく乗り切れたからに他なりません。

適用

私たちの日常に応用できる教えは、先週の繰り返しになりますが、聖書の中にある約束を神が守られるということことです。

神は、聖書から私たちに個人的に語られたご自身の約束を守られますが、私たちはその条件を満たし、真摯な心でその約束がどのように私たちに当てはまるかを考えなければなりません。

先週のメッセージを聞いていない人は、ウェブサイトで読んでください。

けれども、私たちそれぞれに与えられるもっとも大切な約束は、私たちの救いに関する約束です。

- a) ヨハネ 3:16—これは、神の御子イエスのことばです。
3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。
- b) ヨハネ第一 1:5
1:5 神は光であって、神のうちには暗いところがない。これが、私たちがキリストから聞いて、あなたがたに伝える知らせです。
- c) ヨハネ第一 2:6
2:6 神のうちにとどまっていると言う者は、自分でもキリストが歩まれたように歩まなければなりません。

3. ヤコブに対するヨセフの誓い(27-31 節)

27-31 節には、ヨセフがヤコブに対して約束したことが記されています。ヤコブは死を目前にし、自分の遺骨をエジプトに葬らないと息子ヨセフに約束させます。ヤコブは、死んだらエジプトから運び出して先祖の墓に葬ってほしいと頼みました。その場所については、創世記 23 章を読めばわかります。

創世記 23:1-9

23:1 サラの一生、サラが生きた年数は百二十七年であった。23:2 サラはカナンの地のキルヤテ・アルバ、すなわちヘブロンで死んだ。アブラハムは来てサラのために嘆き、泣いた。23:3 それからアブラハムは、その死者のそばから立ち上がり、ヘテ人たちに告げて言った。23:4「私はあなたがたの中に居留している異国人ですが、あなたがたのところで私有の墓地を私に譲っていただきたい。そうすれば私のところから移して、死んだ者を葬ることができるのです。」23:5 ヘテ人たちはアブラハムに答えて言った。23:6「ご主人。私たちの言うことを聞き入れてください。あなたは私たちの間にあって、神のつかさです。私たちの最上の墓地に、なくなられた方を葬ってください。私たちの中で、だれひとり、なくなられた方を葬る墓地を拒む者はおりません。」23:7 そこでアブラハムは立って、その土地の人々、ヘテ人にていねいにおじぎをして、23:8 彼らに告げて言った。「死んだ者を私のところから移して葬ることが、あなたがたのおこころであれば、私の言うことを聞いて、ツォハルの子エフロンに交渉して、23:9 彼の畑地の端にある彼の所有のマクペラのほら穴を私に譲ってくれるようにしてください。彼があなたがたの間でその畑地に十分な価をつけて、私に私有の墓地として譲ってくれるようにしてください。」

創世記 23:17-20

23:17 こうして、マムレに面するマクペラにあるエフロン畑地、すなわちその畑地とその畑地にあるほら穴、それと、畑地の回りの境界線の中にあるどの木も、23:18 その町の門に入って来たすべてのヘテ人たちの目の前で、アブラハムの所有となった。23:19 こうして後、アブラハムは自分の妻サラを、カナンの地にある、マムレすなわち今日のヘブロンに面するマクペラ畑地のほら穴に葬った。23:20 こうして、この畑地と、その中にあるほら穴は、ヘテ人たちから離れてアブラハムの私有の墓地として彼の所有となった。

マクペラの洞穴がアブラハムと子孫のための先祖の墓でした。

現在、この場所はヨルダン川西岸地区のヘブロン旧市街にあり、イスラム教のモスクが置かれています。

ヨセフは 30 節で父親の願いを聞き入れましたが、ヤコブにはそれだけでは十分ではなかったようです。

31 節で、ヤコブは息子にこの約束を必ず果たすと誓わせました。

ここでまず疑問に思うのが、カナンに遺骨を持ち帰ることについて、なぜヤコブがヨセフに念を押して誓わせたのかということです。

簡単に言うと、神の前に誓いを立てれば、その約束を守らなければ神の御怒りと罰を受けることになるからです。

ヤコブは、ヨセフが誓ってくれれば、神の前に必ずその誓いを守ってくれるとわかっていました。次に疑問に思うことは、なぜヤコブは自分の遺骨が先祖の墓に葬られることにそこまでこだわったかということです。

ヤコブは、自分が死んだら先祖のいる天国に行けると知っていました。

それなのに、なぜそこまで強く願ったのでしょうか。

その理由は、カナンに遺骨を埋葬されることが、アブラハムとその子孫に永遠に与えられる土地についての約束を信じているという信仰の表明だったからです。

創世記 15:1-21

15:1 これらの出来事後、【主】のことばが幻のうちにアブラムに臨み、こう仰せられた。「アブラムよ。恐れるな。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きい。」 15:2 そこでアブラムは申し上げた。「神、主よ。私に何をとお与えになるのですか。私には子がありません。私の家の相続人は、あのダマスコのエリエゼルになるのでしょうか。」 15:3 さらに、アブラムは、「ご覧ください。あなたが子孫を私に下さらないので、私の家の奴隷が、私の跡取りになるでしょう」と申し上げた。 15:4 すると、【主】のことばが彼に臨み、こう仰せられた。「その者があなたの跡を継いではならない。ただ、あなた自身から生まれ出て来る者が、あなたの跡を継がなければならない。」 15:5 そして、彼を外に連れ出して仰せられた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい。」さらに仰せられた。「あなたの子孫はこのようになる。」 15:6 彼は【主】を信じた。主はそれを彼の義と認められた。 15:7 また彼に仰せられた。「わたしは、この地をあなたの所有としてあなたに与えるために、カルデヤ人のウルからあなたを連れ出した【主】である。」 15:8 彼は申し上げた。「神、主よ。それが私の所有であることを、どのようにして知ることができましょうか。」 15:9 すると彼に仰せられた。「わたしのところに、三歳の雌牛と、三歳の雌やぎと、三歳の雄羊と、山鳩とそのひなを持って来なさい。」 15:10 彼はそれら全部を持って来て、それらを真っ二つに切り裂き、その半分を互いに向かい合わせにした。しかし、鳥は切り裂かなかった。 15:11 猛禽がその死体の上に降りて来たので、アブラムはそれらを追い払った。 15:12 日が沈みかかったころ、深い眠りがアブラムを襲った。そして見よ。ひどい暗黒の恐怖が彼を襲った。 15:13 そこで、アブラムに仰せがあった。「あなたはこの事をよく知っていないなさい。あなたの子孫は、自分たちのものでない国で寄留者となり、彼らは奴隷とされ、四百年の間、苦しめられよう。 15:14 しかし、彼らの仕えるその国民を、わたしがさばき、その後、彼らは多くの財産を持って、そこから出て来るようになる。 15:15 あなた自身は、平安のうちに、あなたの先祖のもとに行き、長寿を全うして葬られよう。 15:16 そして、四代目の者たちが、ここに帰って来る。それはエモリ人の咎が、そのときまでに満ちることはないからである。」 15:17 さて、日は沈み、暗やみになったとき、そのとき、煙の立つかまどと、燃えているたいまつが、あの切り裂かれたものの間を通り過ぎた。 15:18 その日、【主】はアブラムと契約を結んで仰せられた。「わたしはあなたの子孫に、この地を与える。エジプトの川から、あの大川、ユーフラテス川まで。 15:19 ケニ人、ケナズ人、カデモニ人、 15:20 ヘテ人、ペリジ人、レファイム人、 15:21 エモリ人、カナン人、ギルガシ人、エブス人を。」

ヤコブは、神の約束を信じていました。

適用

では、27-31 節から私たちの日常に応用できる教えは何でしょうか。

ここで著者が私たちに伝えようとしていることのひとつは、神に誓いを立てる行為はとても重大であるということです。

神の前に立てた誓いや約束は守らなければなりません。

古代社会で、誰かの太ももの下に手を入れて約束するというのは、軽々しくすることではありませんでした。

実際には、男性の急所を指し示すことを意味します。

神の選びの民の場合、契約のしるしを指し示すことです。

つまり、割礼です。

ですから、ヨセフがヤコブにした約束は、契約と関連した約束となります。

ですから、私たちに応用するとすれば、神に約束することは、神のために何かをするということなのです。

皆さんにお尋ねします。

皆さんは、神のために何かをするという約束をしたことがありますか。

少し考えてみてください。

もし、具体的に神のために何かをするという約束をしたことがあって、それをまだ実行していないなら、心を改めて、今日からそれを実行しましょう。

もしクリスチャンになったときに正しく教えられていたなら、私たちは人生の新しい主としてイエスを迎え、イエスに仕えると約束したはずです。

あなたはイエスに仕えていますか。

日常生活の中で、常にイエスに従い、イエスをたたえていますか。

そうできているならいいです。でも、もしそうでないなら、考えを改めてください。私たちには、神に約束したことを守る責任が神の前にあります。

神は私たちにすばらしい約束を与え、常に守ってくださいます。

ですから、私たちも神に約束したことについては、真剣に向き合うべきです。

アーメン。